

日本臨床教育学会第15回定期総会

総 会 資 料

日時：2025年10月18日（土）17：30～18：45

場所：京都テルサ 3階 D会議室

日本臨床教育学会総会議事次第

- I. 日本臨床教育学会会長挨拶
- II. 大会校からの挨拶（大会実行委員長）
- III. 議長選出
- IV. 審議事項
 - (1) 機関誌編集委員会提案 資料1
 - (2) 2024年度活動報告案 資料2
 - (3) 2024年度決算案 資料3
 - 2024年度監査報告 資料4
 - (4) 2025年度研究活動方針案 資料5
 - (5) 2025年度予算及び2026年度予算案 資料6
 - (6) その他
- V. 報告事項
 - (1) 第16回研究大会開催地
 - (2) その他
- VI. 議長解任

機関誌編集委員会報告 『臨床教育学研究』第 13 巻発行と第 14 巻編集状況、その他について

第 14 巻機関誌編集委員長 龍崎 忠

1. 第 13 巻の発行について

- ・第 13 巻への一般投稿論文は 9 本あり、厳正な審査を経て結果的に 2 本（研究ノート 1 本、事例報告 1 本）を収録した。
- ・2 種の特集を組み、特集 1 では「人間の生存・成長において集うこと、遊ぶこと、学ぶこと、暮らすこと、の意味を考える」と題して 4 名の論考を掲載した。また特集 2 では、本来は第 10 巻での編集が予定されていた「コロナ時代の教育—日常の記憶と記録」を再編し収録した。
- ・学会に寄贈された図書を中心に 3 冊の書評を収録した。
- ・2025 年 4 月末に株式会社正文舎から発行し会員諸氏に郵送にて届けられた。
- ・発行後に、一部に落丁が発生していることが判明した。当該の論考を頂戴した田村亜紀子会員には、まずもって深くお詫び申し上げます。また会員諸氏にもご迷惑とご不便とを掛けてしまうことを深くお詫び申し上げます。手許の機関誌に別で配付する資料を貼付するかたちでの対応を取っていただくこととし、間もなく事務局から郵送で届けられる会費納付案内に、資料等を同封することとしている。再発防止に向けて、より丁寧な編集作業に努めていく所存である。

2. 第 14 巻編集委員会の構成

1) 編集委員

編集委員長	龍崎 忠	（岐阜聖徳学園大学）
副編集委員長	松田 康子	（北海道大学）
編集委員	荒木 実代	（神戸医療未来大学）
	池田 考司	（札幌学院大学）
	影浦 紀子	（松山東雲女子大学）
	住友 剛	（京都精華大学）
	田渕 久美子	（活水女子大学）
	根本 順子	（兵庫大学）
編集事務局	高橋 孝子	（元東大阪大学）

2) 編集委員会問合せ先

〒501-6194 岐阜市柳津町高桑西 1-1 岐阜聖徳学園大学 教育学部 龍崎研究室
Tel/Fax 058-279-6758 E-mail: tryu@gifu.shotoku.ac.jp

3. 第 14 巻の編集状況

- ・6 月 23 日に zoom にて第 1 回編集委員会をもち、本巻の編集方針や発行スケジュールを確認した。特集テーマについては「揺るがされる現場、立ち往生する援助職」と決定し、趣意文を付して 7 月 15 日付で学会ホームページを通して会員に周知した。

- ・ 9 月 21 日に zoom にて第 2 回編集委員会をもち、投稿された論文とそれらの査読者の選定について確認した。投稿のあった 7 本(論文 1、実践研究論文 2(うち 1 は特集テーマへの投稿)、事例研究論文 1、研究ノート 3)すべてを受理した。受理した 7 本は、すでに査読者への依頼を終え審査が進められているところである。現況で、11 月下旬までに査読結果の取りまとめと審議及び投稿者への結果の告知、12 月末までに再投稿、1 月内の再査読結果の審議及び告知、2 月から 3 月でのゲラ校正、3 月末の発刊、という流れを想定している。
- ・ 特集論文については、テーマにふさわしい実践や研究を展開されている 4 名の方々に執筆を依頼した。
- ・ 会員諸氏からこの間に寄贈されている図書について、前巻と同様に今巻でも「書評」として紹介したい。

4. その他

- ・ 投稿に際しては投稿規程等の内容を把握し遵守の上で投稿くださるよう、会員諸氏には改めてお願いしたい。投稿に必要なチェックリストの作成を編集委員会として検討しないといけないかもしれない。
- ・ 次の第 15 巻の特集テーマについては、編集委員会内で少しずつ議論しつつ、会員諸氏にお伝えできるのは令和 8 年 4 月以後になると見込んでいる。
- ・ これまで毎年 9 月 15 日を投稿〆切日としてきたが、大会の開催がこの日より遅く設定されることが今後も見込まれることから、より多くの投稿があることを期待して、大会の開催後に投稿〆切日を設定することを検討している。具体的に言えば、編集作業全体を 4 ヶ月ほど繰り下げ、翌年の 1 月 15 日に〆切日に移設し、7 月 31 日発行というスケジュールを想定している。とは言え他方で、大学院博士課程在籍者をはじめ若手研究者にとっては学位論文執筆の見通しに大きく影響を与えることや、編集委員の任期の調整が必要となること等の課題もある。施行が叶うのであれば、2 つ後の第 16 巻(令和 10 年 1 月投稿〆切、同年 7 月発行)以後を見込んでいる。

2024 年度（2024 年 9 月 1 日～2025 年 8 月 31 日） 研究活動報告

（１）年次大会について

2024 年度第 14 回研究大会は、2024 年 10 月 26 日（土）・27 日（日）、帝京平成大学中野キャンパスにて対面開催（課題研究及びシンポジウムのみハイフレックス）で実施した。参加者数は 102 名であった。自由研究発表（A）一般研究が 13 本、自由研究発表（B）実践事例研究が 7 本、合計 20 本の研究発表があった。課題研究においては、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳが研究会を開催。シンポジウムでは「臨床教育学設立 15 年研究誌公刊企画に向けて（Ⅲ）いま、教師にとって『子ども理解』の専門性とは何か」と題し、現職教員から学校単位での教育実践を報告して頂き、あらためて教師の専門性・子ども理解について検討した。

（２）定期総会について

2024 年度第 14 回定期総会は、2024 年 10 月 27 日（日）9 時 20 分～10 時 30 分に、帝京平成大学中野キャンパス 2 階 203 講義室にてハイフレックスで実施した。総会出席者数が会員総数の過半数に満たなかったため、会則第 8 条に基づき仮総会となった。仮総会においては、理事会から提案された全ての議題が原案通り承認された。また、一部の議案に関しては質問が交わされ、今後の学会運営に関するご意見を頂くとともに、一部資料の訂正についての指摘を頂いた。

仮総会手続きとしては、決議事項及び訂正後資料をホームページ及びメールで公表し、その後 1 か月の期間、仮総会の決議内容に対する意見を募集した。その結果、会員総数の過半数が文書によって反対されることがなかったため、正式に決議された。

（３）機関誌『臨床教育学研究』第 13 巻について

第 13 巻は、2025 年 4 月末に発行された（通常の発行スケジュールに復帰した）。引き続き、円滑な編集作業を実現させるために理事会や事務局も必要な支援を続ける。

（４）会議について

今年度実施した会議は、下記の通りである。（すべてオンラインでの実施）

2024 年 10 月 25 日（金） 第 7 期 8 回全国理事会兼第 8 期第 1 回全国里 j 会

2025 年 1 月 20 日（月） 第 8 期第 1 回常任理事会

2025 年 3 月 28 日（金） 第 8 期第 2 回全国理事会

2025 年 6 月 7 日（土） 第 8 期第 2 回常任理事会

（５）オンライン連続研究会について

今年度実施したオンライン連続研究会（ZOOM 実施）は、下記の通りである。平均して 40 名程度の参加者を得ており、最高で 60 名の参加者となった。

2025 年 2 月 1 日（日）「教師の専門性と臨床教育学」報告者：森ゆみ子・金子奨

2025 年 3 月 22 日（土）「特別支援教育・発達障害と臨床教育学」報告者：楠凡之・戸田竜也

2025 年 5 月 11 日（日）「包括的性教育と臨床教育学」報告者：渡辺大輔

2024 年 7 月 12 日（日）「インクルーシブ教育と臨床教育学」報告者：浜谷直人

2024年度(2024年9月1日～2025年8月31日)
決算案

(収入の部)

費目	2024年度 予算				2024年度 決算案				差額
	単価	数量	小計	予算案金額	単価	数量	小計	予算案金額	△=+, ▲=-
繰り越し	5,513,463				5,513,463				
年会費	320 (件)			1,860,000	294 (件)			1,802,000	▲ 58,000
(研究職)	8,000	120	960,000	会員数380名	8,000	126	1,008,000	会員数345名	
(教員・社会人)	5,000	150	750,000	納入率≒85%	5,000	145	725,000	納入率≒83%	
(院生)	3,000	50	150,000		3,000	23	69,000		
入会金	2,000	30	60,000	60,000	2,000	9	18,000	18,000	▲ 42,000
大会参加費				600,000				468,000	▲ 132,000
(研究職・社会人)	5,000	100	500,000	対面形式の	5,000	88	440,000		
(学生・院生)	2,000	50	100,000	参加費を基準	2,000	14	28,000		
大会雑収入				0				0	△ 0
(情報交換会)	0				0				
学会誌売上				72,900				74,090	△ 1,190
(価格)	2,000	30	60,000		2,000	32	64,000		
(購入者送料入金)	430	30	12,900		430	15	6,450	レターパックライト料金	
					370	2	740	上記改訂前料金	
					600	1	600	宅急便	
(執筆者抜刷り代入金)						2	2,300		
寄付金				0				0	△ 0
借入金				0				0	△ 0
雑収入				8				328	△ 320
預貯金利子	8				328				
収入合計				8,106,371				7,875,881	▲ 230,490

(支出の部)

	2024年度 予算				2024年度 決算(案)				差額 △ = +, ▲ = -
費目	単価	数量	小計	予算案金額	単価	数量	小計	予算案金額	
会報費				170,000			0	0	△ 170,000
(印刷費)			50,000				0		
(通信運搬費)			120,000	郵送費値上げ分			0		
大会経費	2024年の大会準備(後半)			1,500,000				1,135,761	△ 364,239
(消耗品費)			20,000				44,883		
(印刷費)			0				0		
(通信運搬費)			10,000				1,422		
(講師謝金旅費)			120,000				0		
(会場借用費)			800,000				717,530		
(実行委員会旅費)			10,000				0		
(アルバイト費)			100,000				191,815		
(会議費)			10,000				0		
(配信業者委託費)			400,000				0		
(予備費)			30,000				180,111		
大会準備経費	2024年の大会準備(前半)			50,000				0	△ 50,000
(消耗品費)			10,000				0		
(印刷費)			10,000				0		
(通信運搬費)			10,000				0		
(実行委員会旅費)			10,000				0		
(会議費)			10,000				0		
学会誌出版事業費	第13巻			1,200,000				1,081,325	△ 118,675
(会議費)			30,000				0		
(旅費交通費)			270,000				133,800		
(人件費)			0	2025年度導入の費目			120,165		
(消耗品費)			0				16,600		
(通信運搬費)			50,000				1,160		
(印刷費)			850,000				809,600		
学会誌特別号／出版事業費				910,000				0	△ 910,000
(会議費)			30,000				0		
(旅費交通費)			0				0		
(通信運搬費)			60,000				0		
(印刷費)			820,000				0		
研究推進援助費				530,000				224,935	△ 305,065
(課題研究費)			250,000	5部会編成			177,013		
(特別経費)			280,000				47,922	オンライン連続研究会講師謝礼等	
ホームページ維持費				50,000				0	△ 50,000
(保守更新費)			0				0		
(サーバー・ドメイン維持費)	2024年6月～2027年5月		0	(3年払い)			0		
(英語版維持更新費)			50,000				0		
振込手数料			0				0		
旅費交通費	対面・オンライン併用			300,000				0	△ 300,000
(理事交通費)			250,000				0		
(事務局交通費)			50,000				0		
会議費	対面・オンライン併用			80,000				0	△ 80,000
(理事・事務局会議費)			80,000				0		
(選挙管理委員会会議費)			0				0		
事務局経費				470,000				108,612	△ 361,388
(消耗品費)			20,000				21,855		
(印刷費)			20,000				0		
(通信運搬費)			100,000	Zoom契約含む			86,647		
(人件費)			320,000				0		
(振込手数料)			10,000				110		
(外部委託費)			0				0		
予備費	(訂正前)2,846,271			2,846,371				88,310	△ 2,758,061
合計				8,106,371				2,638,943	△ 5,467,428

収入

7,875,881

—

支出

2,638,943

=

次年度繰越金

5,236,938

2025年9月7日

2024年度 会計監査報告書

会員各位

日本臨床教育学会 会計監査

監査報告書

日本臨床教育学会
第15回定期総会議長 殿

2024年度（2024年9月1日～2025年8月31日）の会計報告及び
収支明細の監査を行った結果、適正な会計業務のもとに学会運営が
行われていることを認めます。

2025年9月8日

監事

東出 益代



監事

吉益 敏文



2025 年度研究活動方針（案）

（１）機関誌特別号について

2026 年 3 月に日本臨床教育学会は設立 15 周年を迎える。そこで、これまで積み上げてきた臨床教育学の課題・展望・学問的使命に関する議論をまとめ、その成果を機関誌特別号として公刊することを目指す。将来構想委員会でも検討を重ねているが、学会全体として取り組んでいく。

（２）年次大会の実施

開催地の実情を踏まえながら、現地開催を基本とし、オンライン参加も考慮に入れた開催形態を検討する。大会支援委員会と現地実行委員を主体とした準備体制、Peatix による事前申込・事前決済など、開催地の負担を減らす。同時に、大会プログラムについても複数の課題研究に参加できるようにするなど、全体として参加者のアクセシビリティを高める。

（３）機関誌『臨床教育学研究』の編集・発行

定期発行を可能とするために編集委員会体制や編集過程の課題に取り組んできたが、今後も持続可能な編集体制を追究する。投稿論文の査読、特集原稿・書評原稿の手配・編集といった実務の円滑化を図るため、部分的な外部委託、副編集委員長の新設など、引き続き改革を行う。

（４）若手・中堅・熟練会員の交流／オンライン連続研究会の開催

年 4 回のオンライン連続研究会が定着し、会員だけでなく非会員からも一定の参加者が得られるようになった。「臨床教育学とは何か」という問い、教育・援助の現場における現実的課題をリアルタイムで交流し、会員相互が学びあえる場を提供するとともに、学会としての問題意識を更新する場とする。

同時に、学会の将来を支える若手・中堅・熟練会員との研究的交流を活性化させ、臨床教育学の可能性と課題を追求する協働を生み出したい。

また、年次大会、研究会を通して、引き続き会員相互の研究交流を活性化させる。各地域（コミュニティ）における意味深い実践・研究を掘り起こす。

（５）若手・中堅にあたる研究者の入会促進

依然として、本学会は所属会員の 3 分の 1 が大学などの教育研究機関に所属する「研究職」区分である。ただし、大学勤務でも「教員・社会人」区分の会員（実務家教員）がおられたり、「研究職」区分であっても退職されていたりするため、実質的に現役の「研究者」は 100 名程度である。このことは、大会開催地の設定、機関誌の査読者選定、大会時の司会者選定、理事会及び事務局の担い手確保などの面で課題となっている。この状態を改善させるためには、若手・中堅研究者の入会が必須である。研究大会やオンライン研究会を充実させながら新入会員を増やし、将来的に理事を担う人材を育む体制も考える必要がある。

（６）国際的な研究交流の継続

臨床教育学の核心となる方法意識やそれを支える諸概念（学術用語等）を、国際的な研究環境の中で意識的に探究する。海外の研究者との研究交流という可能性を探り続け、会員と分かち合えるような研究環境を整備する。海外研究者と親交のある会員にも協力を仰ぎ、研究会に登場してもらうなど、具体的な接点を生み出したい。

（７）事務局運営

業務の一部を外部委託するために、メール対応、機関誌頒布、収支管理・会計業務、入会希望者の審議、会費納入の案内、学会通信の発行、ホームページの更新、大会準備のうち、委託対象となる作業を選定する。なお、学会通信についてはデジタル化を図り、年内に PDF 版を会員に送付し、ホームページにも掲載する。さらに、2026 年に予定している役員選挙についてもオンラインでの実施を検討する。

2026 年の研究大会までに次の事務局受け入れ先を決め、2027 年 3 月までに引継ぎ作業を行う。

2025年度(2025年9月1日～2026年8月31日)・2026年度(2026年9月1日～2027年8月31日)
予算案

※印が補正部分

(収入の部)

費目	2025年度 予算(一部補正)				2026年度 予算案				差額
	単価	数量	小計	予算案金額	単価	数量	小計	予算案金額	△=+, ▲=-
繰り越し	※			5,236,938				1,997,846	△ 3,239,092
年会費	306 (件)			1,848,000	306 (件)			1,848,000	△ 0
(研究職)	8,000	130	1,040,000	会員数360名	8,000	130	1,040,000	会員数360名	
(教員・社会人)	5,000	140	700,000	納入率≒85%	5,000	140	700,000	納入率≒85%	
(院生)	3,000	36	108,000		3,000	36	108,000		
入会金	2,000	30	60,000	60,000	2,000	30	60,000	60,000	△ 0
大会参加費				600,000				520,000	△ 80,000
(研究職・社会人)	5,000	100	500,000	対面形式の	5,000	100	500,000		
(学生・院生)	2,000	50	100,000	参加費を基準	2,000	10	20,000		
大会雑収入				0				0	△ 0
(情報交換会)									
学会誌売上				72,900				72,900	△ 0
(価格)	2,000	30	60,000		2,000	30	60,000		
(購入者送料入金)	430	30	12,900		430	30	12,900		
(執筆者抜刷り代入金)									
寄付金				0				0	△ 0
借入金				0				0	△ 0
雑収入				8				0	△ 8
預貯金利子				8				0	
収入合計	※			7,817,846				4,498,746	△ 3,319,100

(支出の部)

	2025年度 予算				2026年度 予算案				差額 △ = +, ▲ = -
費目	単価	数量	小計	予算案金額	単価	数量	小計	予算案金額	
会報費				170,000				170,000	△ 0
(印刷費)			50,000				50,000	電子媒体を検討	
(通信運搬費)			120,000	郵送費値上げ分			120,000	電子媒体を検討	
大会経費	2025年の大会準備(後半)			1,500,000	2026年の大会準備(後半)			1,550,000	△ 50,000
(消耗品費)			15,000				15,000		
(印刷費)			5,000				5,000		
(通信運搬費)			10,000				10,000		
(講師謝金旅費)			120,000				120,000		
(会場借用費)			800,000				800,000		
(実行委員会旅費)			10,000				10,000		
(アルバイト費)			100,000				150,000		
(会議費)			10,000				10,000		
(配信業者委託費)			400,000				400,000		
(予備費)			30,000				30,000		
大会準備経費	2026 年の大会準備(前半)			50,000	2027 年の大会準備(前半)			50,000	△ 0
(消耗品費)			10,000				10,000		
(印刷費)			10,000				10,000		
(通信運搬費)			10,000				10,000		
(実行委員会旅費)			10,000				10,000		
(会議費)			10,000				10,000		
学会誌出版事業費	第14巻			1,410,000	第15巻			1,410,000	△ 0
(会議費)			30,000				30,000		
(旅費交通費)			270,000				270,000		
(人件費)			200,000	2025年度新費目			200,000		
(消耗品費)			10,000	2025年度新費目			10,000		
(通信運搬費)			50,000				50,000		
(印刷費)			850,000				850,000		
学会誌特別号／出版事業費				910000				0	△ 910,000
(会議費)			30,000				0		
(旅費交通費)			0				0		
(通信運搬費)			60,000				0		
(印刷費)			820,000				0		
研究推進援助費				530,000				400,000	△ 130,000
(課題研究費)			250,000	5部会編成			250,000	5部会編成	
(特別経費)			280,000				150,000		
ホームページ維持費				50,000				80,000	▲ 30,000
(保守更新費)			0				0		
(サーバー・ドメイン維持費)	2024年6月～2027年5月		0	(3年払い)	2027年5月～2030年6月		50,000	(3年払い)	
(英語版維持更新費)			50,000				30,000		
振込手数料			0				0		
旅費交通費	対面・オンライン併用			200,000	対面・オンライン併用			150,000	△ 50,000
(理事交通費)			150,000				120,000		
(事務局交通費)			50,000				30,000		
会議費	対面・オンライン併用			150,000	対面・オンライン併用			80,000	△ 70,000
(理事・事務局会議費)			80,000				80,000		
(選挙管理委員会費)			70,000	役員選挙あり			0		
事務局経費	選挙関係含む			850,000				600,000	△ 250,000
(消耗品費)			50,000				20,000		
(印刷費)			50,000				20,000		
(通信運搬費)			280,000	Zoom契約含む			100,000	Zoom契約含む	
(人件費)			120,000				100,000		
(振込手数料)			10,000				10,000		
(外部委託費)			340,000	2025年度新費目			350,000		
予備費				1,997,846				8,746	△ 1,989,100
合計				7,817,846				4,498,746	△ 3,319,100

2025年度一部補正に関するメモ

(補正前)収入	5,927,179	—	支出	5,927,179	=	次年度繰越金	0
(補正後)収入	7,817,846	—	支出	5,927,179	=	次年度繰越金	1,890,667
※2024年度繰越金確定後							→余剰分

【繰越金と予備費の関係】

予算を組む段階では収支の差額を0となるように組む(次年度繰越金が出ないように組む、具体的には予備費で調整する)が、決算後、「収入の部」の繰越金を訂正すると、次年度予算に余剰が生じることがある。その場合、余剰分を当該年度の(支出)予備費に加え、あらためて収支差額を0にする。なお、未来の次年度繰越金は、前年度予備費をスライドさせている。